

野菜の展望

今月の野菜は、主産地での降雪及び低温、干ばつ等の天候不順の影響から小玉傾向や生育不足となり、露地野菜全般に出荷量の減少が見込まれます。特に葉物・洋菜類を中心に上旬は不安定な入荷が予想されます。当面は品薄傾向となる品目もありますが、今後の天候次第では作柄回復も十分考えられます。

根菜類の大根は、徳島・千葉主体に九州産の入荷です。千葉県産については、2月上旬に端境となる可能性があります。人参は、愛知・鹿児島県産主力の入荷です。鹿児島県産は上旬よりマルチ栽培物(新人参)に切り替わり平年並みの入荷を見込むものの、関東産の入荷量は年々減少傾向となっています。蓮根は、石川中心に茨城・愛知県からの入荷となり、太物を中心に順調な入荷を見込んでいます。甘藷は、石川県産主力に、関東物(茨城)の入荷ですが、石川県産は小玉傾向ながらも、全体的に順調な入荷を見込んでおります。

果菜類の胡瓜は、高知・愛知産に加え群馬県産の入荷で、中・下旬より増量傾向となる見込みです。南瓜は、メキシコ・ニュージーランド・沖縄県からの入荷があり、単価安予想から拡販可能です。トマトは、愛知・岐阜産主力に九州各地から入荷で、愛知県産ファスト系トマトもかなりの増量が期待されます。ピーマンは、高知主力に鹿児島県産の入荷で、気温の上昇とともに下旬より増量見込みです。豆類では、砂糖えんどうは静岡・愛知県産、スナップえんどうは鹿児島・愛知県産、ピース・ソラマメは鹿児島県産の入荷で、それぞれの組み合わせで拡販をお願いいたします。

葉茎菜類の白菜は、愛知・兵庫・茨城県産主力に九州からの入荷です。各産地とも秋冬白菜が終盤となり、中旬以降はやや不安定な入荷も予想されます。キャベツは、愛知県産主力に九州産(鹿児島・宮崎)の入荷で、低温・干ばつの影響から生育不良が見られ、かなりの小玉傾向と予想されます。葱は、結束物が石川・静岡・愛知産に加えて九州産、5Kバラ物は埼玉・群馬県産の入荷です。秋冬葱はピークを迎えるものの、夏場の高温・干ばつの影響から平年より少なめの予想です。ほうれん草は、岐阜・群馬・福岡・愛知県産に加え、出荷遅れの徳島県産がようやく入荷し、天候回復とともに順調な出回りが期待されます。ブロッコリーは、愛知・大阪・高知・鹿児島・長崎県産に加え、輸入物(アメリカ)の入荷です。上旬は低温・干ばつの影響を受け小玉傾向となるも、中旬より回復する見込みです。レタスは寒波の影響を受け、結球不足や小玉傾向が見られ秀品率の低下が予想されます。

菌茸類の生椎茸は、石川県産菌床物中心に富山・徳島・新潟県産の入荷となります。雪解けとともに露地物の出回りも期待でき、原木椎茸は「のと115」中心の入荷となります。しめじ・なめこは、正月休みの影響も解消され入荷は徐々に増量となります。

土物類の馬鈴薯は、北海道・鹿児島県(離島)産の入荷です。北海道産の残量は極めて少なく、引き続き高値が予想されます。新物は鹿児島産主体で太玉を中心に順調な入荷が見込まれます。玉葱は、北海道産の入荷ですが、残量は少ない見込みです。輸入物はアメリカ・ニュージーランド・タイからの入荷となります。

2月の初旬は、節分、中旬には建国記念日、バレンタインデーなど各種イベントに併せ多彩な企画立案の上、販売拡大にご協力をお願いいたします。

果実の展望

今月は、立春を迎えても、まだ寒い日が続く降雪の心配もあるということで、春はまだ遠いようです。みかんは、長崎・静岡・徳島県産の入荷を予定しており、大玉傾向です。本年は裏年ということで、生産量は当初予想をかなり下回る前年比60～70%強の出荷見込みとなります。徳島県産の貯蔵物は、十万温州中心に中旬からの入荷が見込まれます。

本格的な出荷時期を迎える中晩柑類は、伊予柑をはじめ八朔・デコポン・ぼんかん・清見・せとか・甘夏等が愛媛・和歌山・熊本・佐賀・鹿児島・長崎県等各産地より出揃ってきます。品質良好で、酸切れも良く食べやすい仕上がりとなっています。

伊予柑については、主産地である愛媛県での栽培面積が年々減少しているため、前年比80%程の出荷見込みであり、玉流れはL・2L中心になると予想されます。

八朔は、和歌山県産主力の入荷で、週2～3回程の販売予定です。L・M玉中心に前年並の入荷が予想されます。

デコポンは、鹿児島・熊本・佐賀を中心に福岡・和歌山・愛媛県産の入荷となります。各産地の出荷量は前年の約90%程度。やや小玉傾向で20玉中心の入荷が予想されます。

瓜類については、静岡産中心に高知・熊本県産の入荷となります。静岡県産については昨年並の入荷予想ですが、高知・熊本県産については、昨年に引き続き作付面積減少となっていることから大幅な出荷減が予想されます。

莓は、愛知・九州の各産地から栃乙女・さがほのか・さちのか・甘王・章姫といった品種が出回ってきます。上・中旬頃に2番果の増量が見込まれ、下旬以降には3番果も出回ると予想されます。

りんごは、青森県産のサンふじ中心に王林・ジョナゴールド等の入荷です。小玉果の比率が高まり36・40玉中心の出荷が予想されます。

キウイフルーツは、福岡中心に愛媛県産の入荷で33玉中心の入荷販売となりますが、前年に比べて出荷が70%台となっており、単価高で推移すると思われます。

輸入果実のバナナは、フィリピン・南米産中心の入荷です。フィリピン産は産地の天候不順から入荷が減少する見通しとなります。オレンジは、カリフォルニア産ネーブル種の販売で、小玉傾向でのスタートとなったものの、年末の降雨により果実が肥大化し、72玉中心に安定した入荷が予想されます。フロリダ産グレープフルーツは、ホワイト・ルビー種とも中玉・小玉を中心に安定した入荷が見込まれます。レモンは、カリフォルニア産の入荷です。パインは、端境期に入るゴールデン種は週1回、スイーティオ種は週2回の販売となり、入荷量は少ない見込みです。トロピカル関係では、メキシコ産ハネジューメロン・チリ産レッドグローブを中心に南半球の商材が増加してきますが、チリ産レッドグローブは天候不順の影響で入荷減が見込まれます。乾燥果実では、甘栗・干芋・干柿等の順調な入荷が見込まれます。

今月も何卒宜しく御願い申し上げます。

《果実部 大西 信哉》